

マナーを学ぶ場

今でも「ホテル」と聞くと高級感をイメージしてしまう。

子供の頃、ホテルに泊まることは全くなかったし、自分が入るところではないと思っていた。

しかし、最近ではたいへんお手軽に利用できるようになり、かつて自分が持っていたイメージとは違いがあるものの、中に入るとなんだか偉くなったように感じます。

さて、先日、有名チェーン店の比較のお手頃価格のホテルに泊まった。

私は朝食会場で朝ご飯を食べていた。多くのお客さんは、出発を控えてきちっとした服装で食べていたし、リラックスした方々でも、場に応じた服装で食べていた。

その時、異様な感覚を持った。

若いカップルが、客室備え付けの寝間着とスリッパで入ってきた。お二人は「しまった感」もなく、ニコニコ楽しそうに朝ご飯を食べていた。

もしかしたら、今の時代、この場面で私を感じた異様感を持たない方もいると思うが、私はそうではなかった。

ふとその時、昔の経験を2つ思い出した・・・。

1つめは、小学校や中学校時代の儀式的練習である。

子供心に邪魔くさく、雰囲気が嫌いであった。しかし、今思うと、起立・礼・着席の動作や参加者全員で式をつくりあげる大切さを自然に教えられたのではないかな。

2つめは、中学校の修学旅行である。修学旅行というか事前学習である。

今では、当たり前のようなことを1つ1つ教えられた。ユニットバスの使い方、洋式便所の使い方、そして、ホテルの部屋以外の廊下やロビー等はパブリックであること。ホテルでは、一歩自室から出たら公（おおやけ）であることだ。したがって、廊下をスリッパや浴衣で出てはいけないことである。

今では、お客様をお呼びするためにマナーの規準をゆるめたり、外国の習慣を受け入れ、注意しないホテルもあるのかもしれない。

しかし、私の体には、ホテルの部屋以外の空間は行動と同じ感覚が染みついているようだ。

そう考えると、家庭のしつけとともに、学校で教えること学ぶこともたいへん有効なことであると改めて実感できる。もちろん、学校で100人に教えても100人が理解し行動できるとは思わないが、大切な学校における学びであると思う。

実際、学校で指導しても、子供に伝わったか不安に感じることもあるが、意外と多くの子供の心身にこの教えが染みついていくのかもしれない。

自信を持って丁寧に教えてあげましょう。